

委員への事前意見照会結果

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 朝倉 由希

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

◆方向性に関する意見

・基本的な考え方に異存ありません。

・「文化」と「デザイン」の力を引き続き重視すべきと思います。

この2つの分野が、これからの福井を左右します。

「文化」と「デザイン」は、あらゆる分野に横串を刺し福井の価値を高めていくものです。

現在、これまでの蓄積が開花し、全国的に注目される動きが福井から発信されており、今後グローバルな展開も可能な分野です。

◆確認したいこと

・第1期との違い。第1期から継続していることは何か、新たに加わったことは何か。読み取ろうと努力しましたが限界がありましたので、簡単にでもご説明いただければありがたいです。

・新語・造語的な言葉が多いように感じました。それはそれで良いのですが、そのままの言葉では難しく、実現に向けてはコンセプトがあらゆる県民に伝わるような工夫が必要ではないかと思います。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 浅見 由紀

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

・県の取り組みや、長期ビジョンの実行プランは「見える化」しているが、福井市をはじめ、他の市町との連携は？特に駅前を盛り上げるためのプロジェクトには県のテコ入れが必要なのでは感じます。

・進学校以外（農業、工業、商業）の公立高校から、県内の大学への進学という道が狭く感じる。学力、スポーツ以外での推薦入学枠や、平均的な学力が低い子でも、学ぶ意欲があり、一科目でも特化したものがあるのであれば進学できるような学部学科を開設して欲しい。※学科とまではいかななくても、短期講座の開設、オンライン授業など

・ポジティブ・ライフスタイルについて

昨今早期離職率が高いことが問題視されているが、目的意識がないまま進学、就職する若者が多いからだと感じる。本来であれば中学、高校のうちに「社会で働く」ことへの意義を理解し、主体的に将来の進路を決め、責任を持って行動できるようになってから社会に出るべきである。学校での教育にはキャリア形成に特化した教育プログラムの充実と企業と連携した専門的な学びの場の提供、家庭では子どもと向き合う時間を確保し、「個」を尊重しながらも社会人としての意識付けをしていくことが必要。

県にはそれを実現するための支援（教育プログラムの予算化、企業との連携、子育て家族への支援）をお願いしたい。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 池端幸彦 様

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

全体的には、前回私も書面で主張させて頂いた「ダイバーシティ」を全面的に押し出して頂いた「最重点化プロジェクト」をはじめ、福井の良さを認めつつ、「一皮むけた」未来の福井を目指すための道標（みちしるべ）とも言える各実行プランの数々が書き込まれており、キラキラした「夢」に満ちた未来を期待できそうな素晴らしい実行プラン（案）になっていると感じ、まとめ上げて頂いた事務局をはじめ関係各位のご努力に深く敬意を表したいと思います。

ただ一つ気になる点として、各分野の方々にとっては常識的な言葉であっても、一般県民からみた場合、かなりわかりにくいのではないかと思われる「カタカナ言葉」があまりにも多いことが、やや気になります。少なくとも「キーワード」となるもの（例えば、「ダイバーシティ」「アンコンシャス・バイアス」等）や、まだ普遍化しているとはいい難くやや業界用語に近いものについて（例えば、「スタートアップ」「サーキュラーエコノミー」「カーボンニュートラル」「ライフデザイン教育」「インクルーシブ教育」「プッシュ型情報提供」「プレコンセプションケア」「リーディングファーム」「半農（林・漁）半X」「農村RMO」「ライドシェア」「モビリティ」「リスクリング」「フリーアドレス」「スマートエリア」等々）には、注釈を付ける等の工夫が必要かと思えます。またそれ以外のもので、敢えて「カタカナ言葉」にしなくても良いのではないかと思えるもの（例えば「プレイヤー」「アクティブシニア」「ジョブシェア」等）は、日本語に置き換えても良いのではないのでしょうか？ひょっとしたら、未来を語る若者を意識した表現型として敢えて意識的にそのようにしたのかもしれませんが、あまりにも散りばめすぎて少々「鼻につく」感じもしますので、もう少し「日本語」も大切にして頂きたいと思いました。

更に、最後の「地域プラン骨子」については、もしこの地域版の骨子もこ当懇話会メンバーの意見交換のみの中で検討された内容なのであれば、特に方向性が間違っているとは思いませんが、やはり県全体からのみ意見だけでなく各圏域毎の地元の方々のご意見も伺った上でまとめて頂いた方が、より受け入れやすいような気もしました。（もしそのような場を設けていたのであれば、全く異存ありませんが・・・。）

いずれにしても、ここまでまとめてあげて頂いた関係各位のご努力と知事のリーダーシップに、あらためて感謝と敬意を表したいと思います。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 今澤 ひかり

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

・方向性について

懇話会で提案された意見などが内容の中にしっかりと盛り込まれているので、この方向性で良いと思う。

・具体的に実施すべき施策

実行プランの「楽しみを広げる」分野について、福井の文化、歴史、芸術をもっと掘り起こし、博物館や美術館で展示する。国内外の著名な美術品を集めて企画展を開催する。音楽家などを招聘しコンサートを開催し、県外からの人を多く福井に来てもらうようにする。先日サンドームでアイドルのコンサートがあったが、北陸新幹線の越前たけふ駅を利用する乗客が非常に多く驚いた。北陸新幹線のお陰で、楽に気軽に福井に来ることができるようになった。人が福井に集まれば、魅力を伝えやすいし、活性化につながるのではないかと感じた。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：笠原理紗

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

・コンセプトの『とんがろう、楽しもう、ふくい』の「とんがろう」が適切なのかが非常に疑問。「自分らしい＝とんがる」は、違う。「とんがる」ということを前提に、その方向性に向かわせることは多様性に反するのではないか。均質化は多様化とは真逆であり、矛盾を感じる。みんなで同じ特性になる必要はない。大事なものは、普通にしている「とんがっている人」を受け止める、いい意味で面白がれる空気感作りをしていくこと。

・「都会以上の生活水準」を実現には賛同。しかし、「洗練性」の方向性はどうか？もし「洗練性＝都会感」であるならば、そこは大きく間違っている。「福井らしさ」をそこにこそ反映させていくべき。「都会にないものがある地」になれると良い。

・デジタル化が進むにつれ、速いサイクル、情報の増大が見込まれる。またリアルとデジタルの境界線が曖昧になり、不安定さが出てくる恐れもある。そのときちゃんと「人間らしさ」を感じられる場所、取り戻せる場所が必要になってくる。今後、土や自然に触れる体験や時間こそが、その問題を解決したり緩和してくれるようになると思う。そこをしっかりと残し用意しておくこと。

・福井を「チャージできる地」、「自分らしさを発揮できる地」として、生き詰っている人の受け皿となるような県にしていくこと。その実現には寛容性がポイントとなってくると思う。

・『子どもが主役の教育プロジェクト』において、スタートラインである幼児期はとても重要。その環境を提供する保育園、幼稚園、保育者にフォーカスし、労働環境の見直しや世間へのイメージを変えていく施策が必要。社会を支えている人を支えるともっと効果や良い派生は大きくなっていく。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：キャサリン コーネリアス

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

・「新幹線効果の持続化・最大化」

ライドシェア以外の二次交通を増えるべきです。二次交通を増えると、交通事故は減るでしょう。日本の交通ルールはあまり知らないインバウンド客さんや年を取るせいで目が悪くなった日本人を車より二次交通の方を選ぶ選択肢があるべきです。あと、ライドシェアや車の社会に頼れると、福井県のカーボンフットプリントは大きくなるでしょう。

・「全国のスタートアップとの共創」（ページ12）

「ふくいイノベーションオフィス」において、海外のスタートアップでも構築・運営よろしいでしょうか？海外のスタートアップグループ「いなかラボ（Inaka LABS）」は福井に興味を持っているらしいです。

・「仕事、結婚、子育てをしながら「家族時間・ゆとり時間」のある暮らし方改革の実現」

残業が多い社会のままだと、これを実現するのが無理だと思います。部長がいるから家に帰れない制度をなくす必要があります。これをすると福井県民のウェルビーイングも向上するでしょう。（②ライフスタイルに寄り添う職場環境づくり）

・「ミャンマー等での「福井クラス」開催や海外政府機関との連携などによる高度外国人材の確保」

日本にいる留学生もターゲットした方がいいと思います。福井県内や都会巻きの大学にたくさんの方の日本の生活に慣れている外国人留学生がいるから、そこから人材を取ればいいじゃないですか。高度人材の確保するため、福井県内のキャリアフェアをはじめ、福井県の企業は他の都道府県の留学生向けキャリアフェアに参加するべきでしょう。県外の留学生に福井県府で働くをアピールしながら、その生徒の日本人の友人も福井県について興味を持つようになれるでしょう。

・「基本戦略Ⅳ ①」

産業とともに、伝統工芸も守る・育つべきでしょう。京都工芸繊維大学の福井県キャンパス（例えば鯖江市）を企画したらどうですか？または福井県立大学の伝統工芸専門コースを企画するべきでしょう。

・「誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進」（ページ11）

外国籍の生徒のため、親向けの「プリスクール」講座を開くべきです。日本の学校生活について学べないと、その子は残されてしまうはずですが、もちろん、学校内のサポートも必要ですが、家では学校生活について詳しくないと、問題が発生します。プリスクール講座を開催されるNPOなどの支援が必要だと思います。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：小藤 幸男（代理 伊藤 靖朗）

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

・成長を創る（産業力）

8 世界と交わる、ふくいの人・モノ・情報 ◎DISCOVER FUKUI プロジェクト

- ・福井で働きたい外国人材の育成と働き続けたいと思えるサポート体制を充実。

→ 本会では、福祉介護分野の人材確保のため、県と県内福祉施設と連携し、タイ国やミャンマーから外国人技能実習生の受入れ支援を行っている。
実習生たちが福井で生活する上での困難な状況等があればサポートし、福井が好き、長く住みたいと思えるよう支援体制の強化を図っていきたい。

・住みやすさを高める（地域力）

13 人生100年時代の充実生活 ◎全世代のいきいき活躍応援プロジェクト

すべての世代の活動の場の創出

- ・居場所づくり、生きがいくくり等、シニアグループの新たな活動「シニアチャレンジ」支援
- ・シニアの技能・経験と就労・ボランティアニーズをマッチング、「モザイク型就労の拡充」

→ 本会では、シニア世代を対象に、スポーツ・文化・健康づくりのイベント「ふくい健康長寿祭」や地域貢献活動をするための学びの講座を実施したり、年齢や体力に関係なく楽しめるニュースポーツやeスポーツ等の普及啓発を図り、いつまでも元気に地域で暮らすシニア層の健康づくりを支援している。

また、福祉介護の仕事「ちょこっと就労（短時間就労）事業」を進めている。

ちょこっと就労は、専門的技術が不要な業務をシニア層が補う（就労）ことで、介護職員は専門業務に専念することができ、介護の質が高められ、人材不足も解消することができる。

シニア層からすると、人の役に立つ喜びややりがいを得、対価が得られる。

この事業をさらに拡大し活躍の場を広げていく。

14 誰も取り残されない安心の医療・介護・福祉 ◎医療・介護・福祉のトータルケア推進プロジェクト

支援が届きにくい地域住民への支援体制の強化

- ・民生委員など地域福祉の担い手の連携強化

→ 血縁・地縁・社縁というつながりが弱まり、社会的な孤立が起きやすい状況下、本会では県内の民生委員や福祉委員とともに、互いに支え支え合える「地域福祉」の取組みをすすめている。

中には複合的な課題を抱え、どのように支援したらよいか対応が難しい状況下、専門機関と地域の担い手をつなぎ、誰も取り残されることのない地域、県民の出番や居場所がある地域＝住みやすい地域づくりをともに目指していきたい。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 佐竹 正範

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

・ P5

「地域への自信や愛着の醸成」において、観光地としてのブランディングやシビックプライドを醸成するうえでも、一度失うと二度と取り戻せない福井らしい地域文化資本の継承が必要不可欠だと考えます。

地域文化は、様々な形で継承されて行きている。その中、建物はどうしても朽ち果てていくが、福井らしさを形として継承してきたものの中の1つに、地域の食文化があると考えます。福井人の精神性を体現した食文化で先祖を偲ぶ「報恩講料理」があるが、あと5年くらいで消滅していくのではないかと危機感があります。

昨年度作られた、福井県ブランド戦略でも『「千年文化」を未来へ』とうたっており、地域の価値とは、新たなものを作ることもあるが、残していくことで価値となるものがあり、特に連綿と受け継がれ地域文化を象徴する福井の食文化は残していくことが必要ではないかと考えます。

P12 の8 世界と交わる、ふくいの人・モノ・情報 の ◎ DISCOVER FUKUI プロジェクトで、発信する素材が無くなってしまえば発信も出来ないこともあり、 P12 12 楽しみと創造力を育む の 文化芸術・スポーツ力 の ◎ 文化芸術・スポーツによる幸せ向上プロジェクトの中でなど、福井らしい食文化の継承も視野に入れた活動になることを願っています。

・ P18

奥越地域 将来イメージの「農林水産業の振興」として、有機農業面積が福井県大野市は全国2位となっており、この強みは活かしていくべきでは無いだろうか。

<https://www.jacom.or.jp/nousei/news/2023/09/230901-69065.php>

世界の有機農業の取組面積は過去15年間で約3倍に拡大し、2022年では約96.4百万ha、全耕地面積に対する有機農業取組面積割合は約2%に。日本では0.7%にとどまっている。農水省は、みどりの食料システム戦略及び有機農業の推進に関する基本的な方針

に基づき、有機農業の取組面積を 2030 年までに 6.3 万 ha、2050 年までに耕地面積に占める割合を 25%（約 100 万 ha）に拡大することとしている。そんな中、大野市は、耕地面積の 8.7%（約 367ha）が有機農業ということで、世界輸出も考えるとオーガニックな大野市の農業は、福井県の強みとも考えられる。大野市のオーガニックな農業は、観光側面でも地域資産だと考えられ、P18 の 奥越地域の「産業の活力創造」の項目に、有機農業の維持発展といった記載を入れても良いのではないかと？

・ P9

ともに進める（総合力）の「課題や県民からの意見等」にかかっている「コストや人的・物的リソースの共通化」こそが、県民の幸せの為に行政が担う部分で、存在意義だと考えます。

この項での話では無いかもしれないが、県内を周り地域住民の声を聞いていると。。。県民主役とかいうきれいな言葉で、消防や福祉、多機能自治などと業務を現場（住民）に投げすぎではないだろうか？ 地域の現場（住民）は人口減少も伴い、地域の消防団や子ども会、自治会活動などで多忙を極めており、子どもとの時間も、家族との時間も割かれているのが現状ではないか？ 地域の枠組みや活動の仕組みを見直すとともに DX で効率化して、課題解決していくべき領域と考えます。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：高木 薫子

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

・11ページ 「4 子ども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ「ふく育県」の推進の重点施策の一番めのところに、

「保育士・ふく育さんなど子育てサービスの担い手確保」とありますが、「保育士」ではなく、「保育者」としたほうが良いと思います。保育園だけでなく、認定こども園もその役目を担っていて、「保育教諭」と言いますが、今は、総称して、「保育者」とすることが多いようです。

・5ページ一番下の「・若者・子育て世代のUIターンのほか、地域とかかわって活動・貢献する「恩返しUターン」」の拡大とありますが、誰が誰にする恩返しなのでしょう？どういう意味にとらえたらよいのでしょうか？

・日本一幸福な子育て県になっていくためには、思い切った施策が必要な気がします。ポジティブ・ライフスタイルは、とても重要なことだと思います。

子ども家庭庁から出された「はじめの100か月の育ちビジョン」に示されているように、胎児期からおおむね小学1年生くらいまでの子どもの幸福感が、その後の人生の幸福を感じられる基礎を作っていると言われます。

未来の大人がウェルビーイングであるためには、乳幼児期にどれだけ、子どもが幸福感を得られたか、それを支える保護者や養育者を支えることが、乳幼児期だけでなく、将来の社会全体の幸福感につながるという重みをもっと考え、社会に伝えていく必要があると思います。例えば、将来を作っていく子どもの育児にかかる時給は？と考えると、子育て世代への更なる支援は必要だと思います。

仕事は大変ですねと言われるけれど、育児は母親がやって当たり前の風潮がまだまだ大きい。父親の育休もとれるように社会がなっていくことは大きな一歩です。これからもっと当たり前になってほしいと思います。

また、初めての子育てはしんどい、大変なことも多い。それを親御さんが気楽に声をあげられ、支援を受けられたり、ちょっとした支えがあれば頑張れることもあると思います。社会全体で子育てを支えるための具体的な方法をこれから、待たないで考えていく必要があるように思います。

若者の貧困が言われている中、結婚につなげられるような世代への支援も必要では。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 館 直宏

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

・プラン体系、コンセプトともに分かりやすい表記となるように工夫してある点は大変良いと思います。また、具体的な取り組みについても多岐にわたって詳細に記載してあるため、県民の誰もがどこかに該当する長期ビジョンになっており、福井県の行く末をこれまで以上に自分事として捉えることができるのではないかと期待しています。

・アンコンシャス・バイアスへの気づきとして、全世代への啓発や啓蒙は必要ですが、特に子ども・若者に対して気づきを得ることができる機会や学びの場の創出が実施されていくことが必要であるため、自らと福井の将来につなげる学びの推進に盛り込まれると良いと考えております。

第3回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：福井県経済団体連合会 八木誠一郎

次期「福井県長期ビジョン実行プラン」骨子（案）について

骨子（案）をご確認いただき、方向性に関するご意見や、具体的に実施すべき施策の提案などについてご記載ください。

骨子（案）は全体を網羅されており、その方向性に賛同します。
その上で、2点ご意見申し上げます。

①地域全体の成長力を底上げする施策の展開

実行プランの「産業力」の箇所において、記載いただいている通り、企業の新たな成長エンジンを創るための支援施策はとても重要です。地域の中核として経済をけん引する成長志向型の企業の前向きな挑戦を応援していくことが、本県経済の成長に繋がりますので、記載の施策を力強く展開頂きたいと思えます。

それに加え、中小企業や小規模事業者の中には、地域に根差して安定した社会経済活動を担い、持続的な経営を目指す安定志向型の企業も多くあります。これからの5年間は経済の好循環を実現し、デフレ脱却を目指す重要な期間であり、これら安定志向型企業の経営基盤の足腰を強くし、全体的な底上げを図ることが重要だと考えています。DX等による生産性向上や業務効率化、物価上昇に合わせた取引価格適正化、収益力の強化など、地域に貢献する安定志向型企業を含め、地域全体の成長力を底上げする施策の展開をお願いします。

②戦略を具体的に推進していくため体制づくり

長期ビジョンを多様な主体が共有し、オール福井でチームとして能動的に取り組むことが肝要です。

計画の実行性を高めるために、実行プランにプレイヤー（実施主体）等を具体的に落とし込み、オール福井でPDCAを回す仕組みづくりが必要かと思えます。

また長期ビジョンは分野が幅広いので、重点施策・5分野別にタスクフォースがあっても良いのかもしれませんが。